

2023～	精神保健福祉研究	単位数	履修方法	配当学年
		2単位	SR	1・2年
		担当教員	大島 巖	

※この科目は、2023年度以降入学者に対して開講されている科目です。2022年度以前入学者は履修できません。

■授業のテーマ

精神障がい当事者のリハビリー実現を支えるソーシャルワーク実践
～支援環境開発を進める実践と研究の方法～

■授業の目的

- ・近年、精神障がいのある人たちへの支援目標として世界的に重視される「リハビリーの実現」に対して、有効なソーシャルワーク実践の方法を、エビデンスに基づく支援環境の開発（活用と創出）という観点から検討します。その方法は、世界的な脱施設化の潮流の中から実践的に生み出され、実践研究の助けも得ながら発展したことが知られています。
- ・本授業では、当事者が望むリハビリーゴールの種別ごとに（退院・地域移行、働く、社会的役割を持つ、仲間を作る、家族から自立する等）、実践的な積み重ねと実践研究に基づく成果（エビデンス）を提示します。その上で、それぞれの実践現場にどのように適用すれば良いのか、受講生と共に討議しながら、実践力とともに研究力をも身に付けます。

■授業の到達目標

- ①ソーシャルワーク実践の支援ゴールとしての福祉対象者が望む「リハビリーの実現」はどのようなものなのか、どのように捉えたら良いのかを理解し、説明できる。
- ②精神障がい当事者が希望する支援ゴール、リハビリーゴールの実現に向けて重要な「支援の要素」（効果的援助要素）は何かを、国際的な成功例（EBPプログラム等）の経験から整理し、説明できる。
- ③「リハビリーの実現」を支える支援環境開発の方法を、脱施設化をはじめとした取り組みの歴史から学ぶと共に、実践研究の方法である「プログラム開発と評価」をどのように活用すれば良いのかを理解し、それぞれの実践現場に適用することができるようになる。

■授業の概要

ソーシャルワーク（SW）実践の支援ゴールとしての「リハビリーの実現」はどのようなものか、近年のリハビリーに関わる実践と研究の取り組みから整理します。その上で、「社会参加・地域参加」レベルでのリハビリー実現に注目して、退院・地域移行・地域定着、就労、ひきこもりからの離脱、社会参加・仲間作り、家族のリハビリーなどリハビリーゴールの種別ごとに、リハビリーの実現に有効なSW実践の方法を検討します。

SW実践の方法として、エビデンスに基づく支援環境の開発（活用と創出）という観点から、《1》個別の支援事例の経験に基づいて検討するとともに、《2》「プログラム開発と評価」の方法に対応させて理解します。《2》については、可能な限り国際的な成功例（EBPプログラム等）の経験などを用いて整理し提示します。

以上に関する教材は、必読書の大島（2016）と、それに対応した講師提供資料、およびオンデマンド型の動画教材を用います。

在宅学修15ポイントに対応させて、オンデマンド型で動画配信します。在宅学修課題を深めるために、3回ほど同時双方向リモート授業による質疑応答、意見交換のスクリーニング授業を行います。

■在宅学修15のポイント

	学修のテーマ	学修内容(・キーワード)	学びのポイント
1	SW 実践の支援ゴールとしてのリカバリー	成果としてのリカバリー(地域参加)、医療機関でできること、リカバリーの「壁」	当事者が《希望する支援ゴール》の多くは、「参加」に関わり、リカバリーゴールの実現には、支援環境開発など、「環境」の整備が重要⇒講師提供資料・テキスト1章3章・オンデマンド教材を使用
2	精神障がいのある人が抱えるニーズの現状	ICF から見たニーズ、体験としての障がい、ニーズが高い集団の現状と課題	ICF から見たニーズ、体験としての障がい、ニーズが高い2 集団の現状と課題⇒テキスト3章・オンデマンド教材を使用
3	リカバリーゴールの実現に向けて重要な「支援の要素」とは何か	国際的成功例、ICF 参加、ICF 環境整備、「希望」	希望する支援ゴールの多くは、「参加」に関わる、リカバリーゴールの実現には、支援環境開発など、「環境」の整備が重要⇒テキスト2章・3章・4章・オンデマンド教材を使用
4	当事者・実践家が参画する協働型「プログラム開発と評価」の方法	プログラム開発と評価、当事者・実践家参画型評価、効果モデルの共創	リカバリー志向サービスの共創の観点から、当事者・実践家協働型「プログラム開発と評価」の方法論を理解する⇒テキスト4章・オンデマンド教材を使用
5	脱施設化と地域生活支援～直接サービスが伴うケアマネジメントの必要性～	脱施設化とケアマネジメントの関係、日本に求められる脱施設化とケアマネジメントの条件	脱施設化の定義と歴史を理解する、欧米の脱施設化の発展と、ケアマネジメントの誕生・発展の関連を理解、日本に集中型・包括型ケアマネジメントを導入するための課題を整理⇒テキスト5章・オンデマンド教材使用
6	集中型・包括型ケアマネジメント：ACT	脱施設化、回転ドア現象の防止、包括的ケアマネジメント、モデル実践尺度	ACTと脱施設化の関係、リカバリーの観点からの評価、日本での実施・普及とSW の役割⇒テキスト6章・オンデマンド教材を使用
7	援助付き住居プログラム～「まずは住居を」プログラムの可能性～	援助付き住居、住居の自己選択、基本的人権としての住居	住居支援において配慮すべき援助、「まずは住居を」プログラムの意義と効果の理解、「まずは住居を」プログラムを精神病院長期入院者の退院促進にどう活用するか⇒テキスト7章・オンデマンド教材を使用
8	退院促進支援への取組みの現状と課題：医療とケアサービスの連携・協働	退院促進支援事業、地域移行定着支援事業、医療機関と地域事業所の連携・協働	退院促進支援事業の概要と課題、退院促進支援事業がより有効に機能するために必要なことや課題を、ACT や「まずは住居を」から考察⇒テキスト8章・オンデマンド教材を使用
9	家族ケアの必要性和限界～家族支援プログラムのあり方①	家族ケアと家族支援、家族アセスメント、家族の感情表出、「生活者としての家族」「援助者としての家族」	精神障がいのある人の家族の置かれている現状、家族ケアの限界とニーズ、家族支援を行うための前提条件、「援助者としての家族機能」と「生活者としての家族機能」のそれぞれに対する支援の必要性⇒テキスト9章・オンデマンド教材を使用
10	家族支援の方法と有効性～家族支援プログラムのあり方②	家族心理教育、医療機関における心理教育の位置、家族支援の全体プロセス、家族ケアマネジメント	家族心理教育について理解、心理教育が注目された背景と導入の意義、特に医療機関における心理教育の位置と役割、家族支援の全体的プロセスと家族心理教育の位置⇒テキスト9章・オンデマンド教材を使用
11	ひきこもり理解・支援の実際	社会的ひきこもりの定義、ひきこもりからのリカバリーゴール、ひきこもりに対する支援方策	精神障がいをもつ人たちのひきこもり支援のニーズと理解、精神障がいをもつ人のひきこもりの方に対する支援の現状、ひきこもりの方に対する今後の支援方策⇒テキスト10章・オンデマンド教材を使用
12	就労支援の新しい方向性～IPS 援助付き雇用プログラムへの注目	リカバリーゴールとしての一般就労、IPS 援助付き雇用の有効性	精神障がいをもつ人たちの就労ニーズと雇用の現状、精神障がいをもつ人たちへの適用状況を理解、IPS 援助付き雇用の特徴と意義、効果を理解する⇒テキスト11章・オンデマンド教材を使用
13	ピアサポート、当事者サービス提供者、セルフヘルプグループ	ピアサポートの有効性、ピアサポート活動とのパートナーシップの形成	ピアサポートのニーズ、ピアサポートの意義と価値、効果、ピアサポートと当事者サービス提供者のさまざまな類型、ソーシャルワーカーとして、ピアサポートとどのようにパートナーシップを築いて行くか⇒テキスト12章・オンデマンド教材を使用
14	EBP プログラムと支援環境開発アプローチ	エビデンスレベル、治療ガイドライン、実施・普及ツールキット	リカバリーゴール達成に有効な国際的な標準モデルの意義、そのように効果モデルを開発するか、実施・普及の進め方⇒テキスト13章・オンデマンド教材を使用

	学修のテーマ	学修内容(・キーワード)	学びのポイント
15	支援環境開発のための方法とソーシャルワークの役割	ソーシャルワークにおける支援環境開発の意義と役割、障害者運動、福祉実践の国際的連携と協働	支援環境開発とソーシャルワークの関係、障がい者運動・セルフヘルプグループの意義、支援環境開発のために、当事者・当事者団体とどのようにパートナーシップを築くか、支援環境開発のための国際的連携と協働の必要性⇒テキスト14章・オンデマンド教材を使用

■スクーリング事前課題（学修時間目安：40時間以上）

あなた自身の研究課題に関連した（あるいはあなたが関心を持つ）当事者のリカバリーゴール種別（退院・地域移行・地域定着、就労、ひきこもりからの離脱、社会参加・仲間作り、家族のリカバリーなど）を1つ取り上げ、そのリカバリーゴールをどのように実現したら良いのか、支援環境開発論の観点から、可能な限り具体的な実践事例に基づきながらまとめてください。その際、取り上げたリカバリーゴールの種別におけるゴールの実現に向けて重要な「支援の要素」(効果的援助要素)については必ず言及するようにしてください。同時に他のリカバリーゴール種別への取組みから抽出された「支援の要素」(効果的援助要素)についても、あなたの課題に可能な限り取り入れるようにしてください。

レポートは、A4用紙2～3枚にまとめて、第3回スクーリングの前迄に事前提出をしてください（8/3迄）。

■スクーリング授業計画

	授業の内容	授業の方法
1	精神障害当事者のリカバリー実現を支えるソーシャルワーク実践～総論と授業の進め方	オンデマンド
2	在宅学修15ポイントの1-2の動画配信とコメント票でのフィードバック	オンデマンド
3	在宅学修15ポイントの3-4の動画配信とコメント票でのフィードバック	オンデマンド
4	在宅学修15ポイントの1-4に関する解説と質疑応答	リモート授業 (6/3 or 6/4に相談の上開催、1コマ)
5	在宅学修15ポイントの5-6の動画配信とコメント票でのフィードバック	オンデマンド
6	在宅学修15ポイントの7-8の動画配信とコメント票でのフィードバック	オンデマンド
7	在宅学修15ポイントの5-8に関する解説と質疑応答	リモート授業 (7/1 or 7/2に相談の上開催、1コマ)
8	在宅学修15ポイントの9-11の動画配信とコメント票でのフィードバック	オンデマンド
9	在宅学修15ポイントの12-15の動画配信とコメント票でのフィードバック	オンデマンド
10	在宅学修15ポイントの9-15に関する解説と質疑応答	対面・リモート授業 (8/5 or 8/6に相談の上開催、1コマ)

■スクーリング事後課題（学修時間目安：30時間以上）

この授業で取り上げた「エビデンスに基づく支援環境開発を進める実践と研究の方法」について、あなたの修士論文研究にどのように活用可能であるのか、この方法論に含まれるいくつかの視点に合わせて、具体的に論じてください。

■レポート課題

課題1 (事前課題)	あなた自身の研究課題に関連した（あるいはあなたが関心を持つ）当事者のリカバリーゴール種別（退院・地域移行・地域定着、就労、ひきこもりからの離脱、社会参加・仲間作り、家族のリカバリーなど）を1つ取り上げ、そのリカバリーゴールをどのように実現したら良いのか、支援環境開発論の観点から、可能な限り具体的な実践事例に基づきながらまとめてください。その際、取り上げたリカバリーゴールの種別におけるゴールの実現に向けて重要な「支援の要素」(効果的援助要素)については必ず言及するようにしてください。同時に他のリカバリーゴール種別への取組みから抽出された「支援の要素」(効果的援助要素)についても、あなたの課題に可能な限り取り入れるようにしてください。
---------------	---

課題 2 (事後課題)	この授業で取り上げた「エビデンスに基づく支援環境開発を進める実践と研究の方法」について、あなたの修士論文研究にどのように活用可能であるのか、この方法論に含まれるいくつかの視点に合わせて、具体的に論じてください。
----------------	---

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス



学修テーマの各論に当たる在宅学修15のポイント第6項～134項を参照してください。できるだけあなたの研究課題に引き寄せながら、具体的な実践例に則してまとめてください。



学修テーマの総論に当たる在宅学修15のポイント第1項～4項、第14-15項を参照してください。できるだけあなたの研究課題に引き寄せながら、具体的な実践例に則してまとめてください。

■評価の方法・基準

- ・スクーリング50%、課題レポート50%

■参考文献（*印=大学から送付される必読図書）

- * 1) 大島巖著『マクロ実践ソーシャルワークの新パラダイム～エビデンスに基づく支援環境開発アプローチ：精神保健福祉への適用例から』有斐閣、2016年
- 2) 田村綾子編著『社会資源の活用と創出における思考過程』中央法規、2019年
- 3) 大島巖、奥野瑛子、中野敏子編『障害者福祉とソーシャルワーク』有斐閣、2001年
- 4) 大島巖編『A C T・ケアマネジメント・ホームヘルプサービス～精神障害者地域生活支援の新デザイン』精神看護出版、2004年